Project No.
17 | 農業・観光

ファンコミュニティが生み出す生産者の稼ぐ力
シェアオーナーという生産者と消費者の新しい関係を構築

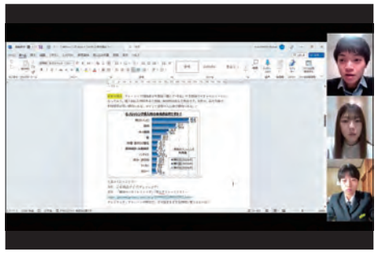
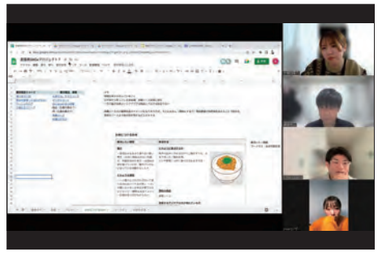
TRY ANGLE EHIME
トライアングルエヒメ

採択事業者名 EXest株式会社

コンソーシアム構成員 一般社団法人西予市観光物産協会｜田力本願株式会社｜株式会社テレビ愛媛

勉強会の実施概要

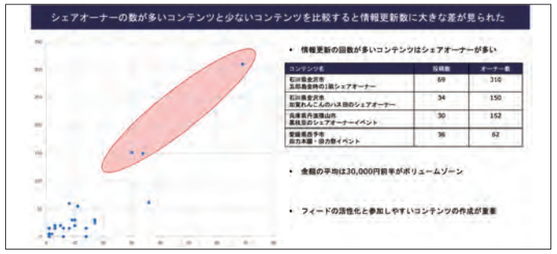
勉強会の目的	PocketOwners内でアクティブに活動いただき、オーナーの獲得にどういった要素が重要なのかを見極めるため。また、生産者が登録から活動に至るまで、どういったボトルネックがあるのかを確認、検証するため。
勉強会の当初のゴール想定と結果	生産者へPocketOwnersを説明し、何をメリットに感じていただけるのか、どういった要素があれば利用するのかをヒアリングし、それを機能に落とし込むことをゴールとしていました。またITリテラシーが高くない生産者がより簡単に利用でき、アクティブに活動いただくUI/UXの構築も目指しています。結果として、生産者が重視することは、オーナーとのコミュニケーションを通じた顔の見えるファンの獲得であり、次に、規格外生産物の有効活用でした。規格外は商品開発プロジェクトを実施、オーナーとのコミュニケーションはフィード機能の実装により実現できました
参加者	田力本願、JAひがしうわ、山媛ファーム、戸田果樹園、しましま農園、フルーツパークたかの、宇都宮酒造、愛媛大学、テレビ愛媛
協議アジェンダ	PocketOwnersの目的、ゴールの説明を実施→PocketOwnersの使用方法→PocketOwnersのオーナー属性情報の共有→オーナーを獲得できている生産者の成功事例紹介→使用感のヒアリング→PocketOwnersで達成したい世界観ヒアリング
協議による実装推進上の重要な決定事項/示唆	生産者とオーナーのコミュニケーションを活性化させることが重要だったため、フィード機能を充実させ、生産者からの情報発信を見えやすくしました。またいいね、コメントシェア機能も追加実装しました。
その他補足事項など（開催頻度、規模など）	開催頻度は月2~3回程度、規模は2~3名程度の個別での勉強会もあれば、30名程度の大規模な勉強会、ヒアリングも実施しました。

ビーツの農家(山媛ファーム)さんと学生による少人数での勉強会

デジタル実装協議フォーマット

目指す「実装成果」の定義	PMFが達成されている状態。生産者が自らPocketOwnersを見つけ出し、登録。その後、シェアオーナーやイベント・プロジェクトなどを単独で設計でき、ファンを募集できる状態にすること。また、オーナーになりたい方が自らサイトまで訪問し、検索、決済をする状況。
データに基づく協議ポイントの整理	生産者のフィード投稿数とシェアオーナーの相関に関してデータに基づいた議論をしました。ポイントは3つ。❶投稿数とオーナーの数は相関があるのか、❷投稿の内容やクオリティはオーナーの数に相関があるのか、❸投稿頻度はどの程度影響があるか、です。❶に関しては投稿数が増えればオーナーの数が増える傾向にあり、投稿がないものはオーナーが付きにくいということがわかりました。❷、❸に関しては、動画か、写真か、テキストの長さ、投稿時間や投稿感覚では特に明らかな変化は見られませんでした。(N数が少ないため有意な結果と言えるほどの示唆はありませんでした)
主なデータ項目	フィード投稿数、フィード投稿時間、シェアオーナー数、フィード内容を整理し、エクセルで管理、分析しました
ガイドライン（含む具体例）	フィード投稿数とシェアオーナーの増加数に相関が見られるため、フィード投稿に関してガイドラインを設計しました。具体的には、2週間に3回以上の投稿を実施すること、投稿内容、投稿時間は問わない。動画・写真・テキストの長さ、投稿元のコンテンツとの親和性、投稿間隔などは自由としています。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	より多くのN数を分析するため、フィード投稿を整理しています。今後、フィード内容や投稿関連のデータが蓄積されてきた際には別途分析し、生産者にフィードバック、データを活用したガイドラインをブラッシュアップしていきたいと考えています。



商品開発プロジェクトを通じての農家(田力本願)さんへのエンゲージメントの調査

Copyright © EHIME Prefecture. All rights reserved.